

都城市議会議長 様

提出日 令和 6年 7月24日

視 察 報 告 書

以下のとおり視察したので報告します。

1 所属会派名及び参加議員

【会派青雲】 神脇清照、迫間輝昭、川内賢幸、広瀬功三

2 視察目的・視察先

○焼酎メーカーの「さつまいも基腐病」への対応状況

○霧島さつまいも種苗生産センター「イモテラス」

対応者 霧島酒造株式会社 原料部 部長 松原 史 氏

〃 農業生産支援課 課長 坂元 裕哉 氏

〃 〃 係長 橋口 公太郎 氏

3 視察日時

令和6年7月23日（火）10時～11時30分

4 視察内容

当該施設は、「さつまいも基腐病」に対応するために茎頂培養で生産した菌やウイルスを持たない清浄苗の提供と、さつまいも研究という二つの目的のために建設されている。2013年に2000軒以上あった さつまいも農家が2018年からの基腐病の蔓延に伴い離農が進み、直近で1200軒ほどに減少したことに危機感を持って計画から竣工まで短期間で建設された。こうしたことから、建設資金は国等の補助金ではなく自己資金を充てている。

さつまいも農家の経済的安定と焼酎原料の安定的な生産・供給を受けるために、焼酎メーカーとして まず「出来ること」として、感染の可能性を確実に排除できる苗生産と普及が必要だと考えている。ただ、これまで清浄苗（ウイルスフリー苗）を提供してきた民間業者等に影響を及ぼさないような提供苗の単価等については配慮している。現在、苗の植え付け機械（5台）を導入し、農家へ

貸し出しているほか、将来的には農家の減少等を見込んでポット苗の植え付けの機械化も想定している。

また、研究開発においては、基腐病への抵抗性とアルコール収量の高い「みちしずく」という品種を開発している。これまでの「黄金千貫（コガネセンガン）」を使用した焼酎との相性もあるが、この品種については焼酎原料としては未使用である。なお、他の品種「スズコガネ」については、商品名「霧島8（きりしまナンバーエイト）」に使用されている。

5 視察の感想

さつまいも生産において細菌等に感染する可能性の工程はいくつかあるが、最初の苗生産工程を清浄化することでさつまいも農家の離農や原料の安定供給につなげようとしていた。焼酎生産に使用する さつまいもは、年間約10万トンが必要であるなかで、基腐病の蔓延により令和5年は約7万4千トンに減少していたが、令和6年は新しい品種を含め約8万6千トンを予定しており、少しずつ基腐病対策が進んできているものと見受けられる。

この施設建設に伴い、原料加工に伴う季節労働者の年間雇用が進んだほか、苗生産システムでは液肥散布、防除の自動化などの省力化、本工場からの温排水を活用した省エネ化、苗の植え付けの機械化などが進んだことを見れば、「基腐病」という危機がこの会社と関わる農業の在り方を変えていくエポックメイキングとなっていると感じた。

6 視察の成果及び市政への反映

さつまいも生産に関して「基腐病」だけでなく新たに「茎根腐細菌病」が広がりつつあることや、温暖化に伴い新たな害虫（ムツスジアシナガゾウムシ）による被害が隣県で発生していることが説明された。こうした事象が本地域に広がることを想定し、本市農政部を始め関係業界においてリスク及び情報の迅速な共有と対応策の事前検討が必要である。

また、苗の植付機の導入にあたっては、今後さつまいも農家の減少等により導入を計画する事業者が増えてくると思われるが、現時点では国の補助が受けられていないので市としても何らかの対応を検討する必要がある。

【イモテラス入り口】



【管理研究棟（右側）と育苗施設（左側）】



【担当者によるイモテラス全般の説明】



【育苗施設 機械化により人手を省いているほか 加温に志比田工場の温排水を利用している】



【苗の植え付け機 5台を備え農家に貸し出している】

